

「第73回全国産業安全衛生大会 2014in 広島」が開催される

毎年、全国各ブロック持ち回りで、厚生労働省などが後援、各業種別労働災害防止団体が協賛し、中央労働災害防止協会（中災防）が主催する『全国産業安全衛生大会』が、平成26年度は、中国・四国ブロックの広島市内で9年振りに、10月22日（水）から24日（金）までの3日間、全国から約8,500名を集めて、盛大に開催されました。



開会式の様子



大会式辞を述べる榊原会長
(ビデオメッセージ)



祝辞を述べる山本厚生労働副大臣



全国から約8,500名が集結

大会初日（10/22）は、13時15分から広島県立総合体育館（広島グリーンホール）において、総合集会が行われました。

開会式では、国歌斉唱・黙祷の後、開会の辞（中災防副会長）が行われ、榊原定征 中災防会長の大会式辞ビデオメッセージがあり、山本香苗 厚生労働副大臣、広島県知事、広島市長からの祝辞、開催地の公益社団法人広島県労働基準協会会長の挨拶、国際労働機関（ILO）事務局長からのビデオメッセージがありました。

続いて、労働安全衛生活動の推進に功績のあった企業、個人、団体関係者の表彰式が行われました。

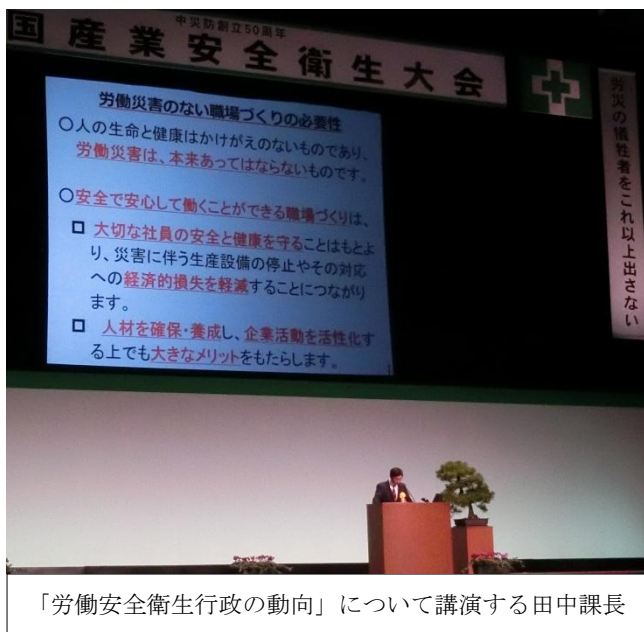
平成26年度の緑十字賞表彰では、「産業安全」に当協会西部支部の労働安全衛生教育専門講師の卜部忠義氏が、また、「産業安全及び労働衛生」に当協会中部支部長の井木久博氏（株）井木組代表取締役会長）がそれぞれ受賞されました。



大会に参加された卜部忠義氏

その後、減少傾向にあった労働災害が今年に入り再び増加傾向に転じており、その状況を打破するため、経営トップの強いリーダーシップのもと、リスクアセスメントや危険予知活動など、自主的安全衛生活動の促進を謳った労働災害防止団体法の制定から50周年という節目の本大会を契機に、労働災害の犠牲者をこれ以上出さないという強い決意のもと、全ての関係者が一丸となって対策に取り組むことを誓い、大会宣言が採択されました。

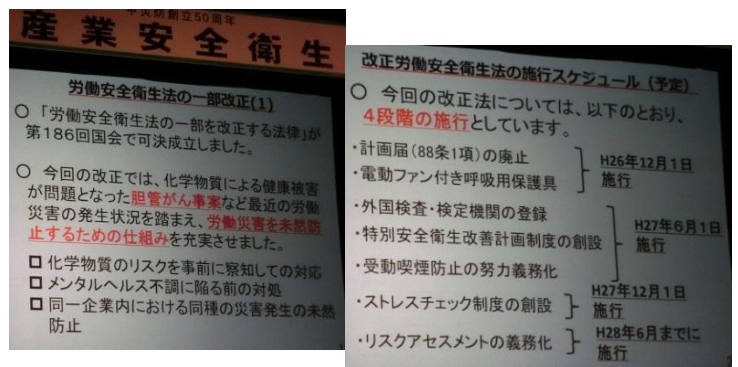
大会宣言採択後、労働災害減少に向けた決意を新たにするため、会場の参加者全員による指差し唱和が行われました。



「労働安全衛生行政の動向」について講演する田中課長

講演では、田中敏章 厚生労働省労働基準局安全衛生部安全課長による「労働安全衛生行政の動向」と題する講演が行われました。

続いて、岡山県出身の元マラソンランナー有森裕子氏の「よろこびを力に…～諦めない心の育て方～」と題して特別講演がありました。



2日目 (10/23)、3日目 (10/24) は、広島市内の各会場で10の分科会に分かれ、事業場等からの応募による研究発表のほか、特別報告、講演、パネルディスカッション等約200近いプログラムが行われ、各会場とも盛況で、参加者は熱心に発表に耳を傾けていました。

なお、次の第74回 (平成27年度) の本大会は、平成27年10月28日 (水) ~30日 (金) の3日間、東海ブロックの愛知県名古屋市での開催が予定されています。



筆者 (Mr. K) が参加した「ゼロ災運動分科会」の様子 (10/23 (木) 於 ; アステールプラザ 大ホール)

大会宣言

本年八月に広島市で発生した豪雨による土砂災害では、多くの人命が失われ、甚大な被害がもたらされた。犠牲となられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々に心からお見舞いを申し上げます。また、復旧・復興工事が安全に行われ、被災地において一日も早く安全で安心した生活が送れることを強く願うところである。

我が国の労働災害は関係者の努力のもと、長期的には減少してきたが、平成二十二年から三年連続で増加した。昨年は減少したものの、今年に入り再び増加傾向に転じており、特に、これまで労働災害防止活動に積極的に取り組んできた製造業、建設業、陸上貨物運送事業などで死亡災害が大幅に増加している。さらに小売業や社会福祉施設、飲食店においても労働災害の増加傾向が大きく、極めて憂慮すべき事態にある。

その背景には、景気の緩やかな回復に伴う産業活動の活性化に加え、これまで現場を支えてきた世代の退職、就業形態の多様化などにより安全衛生のノウハウが若い世代にうまく伝承されていないことや安全衛生教育、安全パトロールなどの安全衛生活動が十分に展開されていないことなどが考えられる。

今日のこのような状況を打破するためには、経営トップの強いリーダーシップのもと、リスクアセスメントや危険予知活動などの安全衛生活動の総点検の実施、事業場の安全管理体制の充実、雇入れ時教育の徹底を中心とした効果的な安全衛生教育の実施などに、労使をはじめ、関係者が一体となって取り組んでいくことが重要である。また、心身両面にわたる健康づくり、とりわけ、メンタルヘルス対策の一層の充実が求められる。

自主的労働災害防止活動の促進を謳った労働災害防止団体の制定から五十年間という節目に開催される本大会を契機に、労働災害の増加傾向に歯止めをかけ、労働災害による犠牲者をこれ以上出さないという強い決意のもと、すべての関係者が一丸となって、労働災害防止対策に取り組むことを誓う。

右、宣言する。

平成二十六年十月二十二日

第七十三回全国産業安全衛生大会